

工場で人気のeスポ

高生 白熱の格闘ゲーム

eスポーツの県学生大会(工場のアンビカタ実行委主催)が10月26日、市内藤井のテック長沢本社工場で開催された。県内の高校生や大学生ら25人が大型工作機械が並ぶ中、格闘ゲームで

白熱したバトルを繰り広げた。

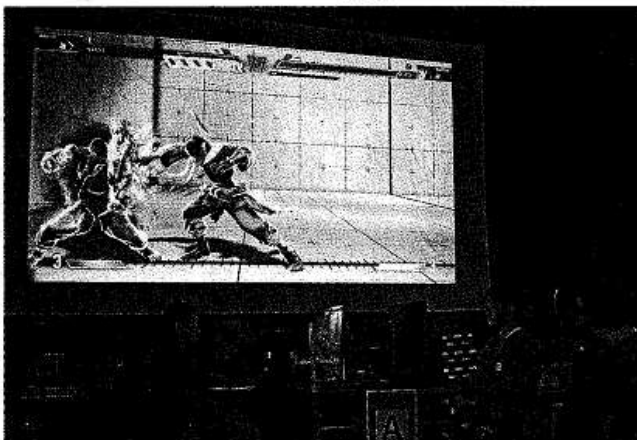
大会は、機械金属工場の認知度の向上、求人支援活動の一助を旨とした。工場内の天井クレーンからつるした300kgの巨大スクリーンに、人気ゲーム「ストリートファイター6」をプロシエクターで映し出した。迫力たつぷりの上、対戦者以外でもバトルを鑑戦できた。

試合は個人戦トーナメントに進めた。予選から決勝までの全5試合ストリート6を収めた、開志学園高1年・荒木政徳さんは「スト6歴は1年。毎週日曜に長岡市内のゲームセンターまで行き、社会人相手に対戦し、腕を磨いている。大学生が相手でも気負いなく戦えた」と喜んだ。

4位になった県立大1年・佐久間虎太郎さんは「この大会で普段見られない工作機械を間近で見ることができた。大音量や大画面による迫力も相まってとても斬新」と次回の開催を望んだ。

加藤賢汰・実行委員長(25)は「工場をPRする手段としてeスポーツを選んだ。市内外からの大勢の参加があり、大成功だった。これからも第2回、第3回と続け、工場内のドローンやダンスのプレイキンなど新たな企画も検討したい」。

会場、景品を提供した長澤智信社長(46)は「工場を一度見ていただくことで、就職活動やインターンシップの際、会社名を思い出しもらえるだけでも協力した意義がある」と期待を寄せた。



工場を会場に、人気格闘ゲーム「スト6」で白熱したバトルを行った学生大会。市内藤井、テック長沢本社工場

産大レクチャー ●●● ア・ラ・カルト

〈203〉

「英文学」または「英米文学」という用語はおおむね同じ学問分野を指し、それぞれ学科の名称としても長く使われてきた。もともと、私自身が卒業した「英米文学科」には、他大学に先駆けて戦前から英国(UK)・ユナイテッド・キングダム)だけでなく、米国(アメリカ合衆国)の文学も研究・教育をしてきた。

という自負が込められていたように思う。実際、学科改組の結果、「文学科英米文学専攻」と名称変更したのちも、紀要(大学の学部・学科または研究所が発行する論文集)のタイトルは単に「英米文学」である(通常は「〇〇大学△△学部★★学科紀要」などとすることが多い)。学科名称としては他に「英語英

「英語文学」とは

(米)文学科」や「英語学」などがあり、学部の性質にもよるが、前者は文学だけではなく英語学(言語学の英語分野)や英語教育への、そしてとくに、2000年代初頭に私は『英米文学事典』(仮)の執筆と編集に少しかかわっていた。その事典が07年にミネルヴァ書房から『英語文学事典』として出版された時にはとても驚いた覚えがある。「英語文学」という日本語はそれまで聞いたこともなかったからである。ただし、英国の旧植民地の現代文学は

黒川 敬三

「モンヴェルス文学」(あるいは「英連邦文学」として)をよく知られており、私自身も以前に読書室内でインド出身の作家を紹介していたこともあった。「英語文学」の意味するところは十分に想像できた。英米に限らず、英語で書かれたすべての文学をさせる言葉は意外にも単純だったのである。そして、一年間

に出版された最も優れた長編小説に与えられる、英国のブッカー賞の受賞作と候補作は今や半分ほどが旧植民地出身の作家たちの手にするものとなっている(注・最近まで米国籍の作家は除外されていた)。事典の筆頭編集者を務めた方と出版社に先見の明があったと言えるかもしれない。さらに19年から文部科学省は英語の教職課程における「英米文学」を英語文学」に変更した。それに伴って私が08年から

(経済学部教授)

|| 毎月1回掲載 ||

覚悟とチーム力 業績回復果たす

新潟産大特別講座で
井上・八芳園社長

新潟産大で特別公開講座が開かれ、奇跡のV字回復を成し遂げた井上義則・八芳園社長(64)が「TEAM for WEDDING」をテーマに講演した。学生や一般ら約90人は、逆

境の中で再び結婚式場としての輝きを取り戻した体験談に耳を傾けた。

八芳園は東京白金台にある、400年の歴史を誇る日本庭園を持つ老舗の結婚式場。結婚式の多様化や「ナシ婚」の増加に伴い、披露宴数がピーク時の3分の1の千組にまで減少。井上さんは33歳の時、同業他社から八芳園に入社。改革を推進し、挙式数も2千組まで回復したが、売り上げとともにクレーム数も増えた。そこで「新郎新婦をハッピーにする」という原点に立ち返り、社内各部署の意識改革に着手。従業員が

共通の目標に向かって協力し合える環境を整え、顧客の満足度向上を目指した。講座は先月30日であった。井上さんは「転職時には周囲から反対もあった。それを気にすることはなく、業績回復に全力を注いできた」と述べ、当時の覚悟を振り返った。八芳園では現在、日本の美意識をテーマにした観光コンテンツの開発にも取り組んでいると紹介。訪日外国人から日本の伝統工芸や文化への関心が高まる中、「精神的豊かさを提供できる場の構築を目指し、「社員に美しく仕事をすることを働きかけている」と述べた。

特別公開講座で学生の質問に答える八芳園の井上社長(左)新潟産大

特別公開講座で学生の質問に答える八芳園の井上社長(左)新潟産大



特別公開講座で学生の質問に答える八芳園の井上社長(左)新潟産大

特別公開講座で学生の質問に答える八芳園の井上社長(左)新潟産大

在、日本の美意識をテーマにした観光コンテンツの開発にも取り組んでいると紹介。訪日外国人から日本の伝統工芸や文化への関心が高まる中、「精神的豊かさを提供できる場の構築を目指し、「社員に美しく仕事をすることを働きかけている」と述べた。

特別公開講座で学生の質問に答える八芳園の井上社長(左)新潟産大

若い地域人材期待込め

西部地区 コミセン 産大生ら交え研修

市コミュニティ推進協議会のうち、西部地区の五つのコミセン（大洲・米山・上米山・鯨波・剣野）の職員を対象にした「西部郷研修会」が8日、東の輪の旅館広川で開かれた。新潟産大の学生らと交え、若い力に期待した。

同協議会と新潟産大は今夏、相互の発展と地域の活性化に関する連携協定を締

結し、今回の研修につながった。この日はコミセンの会長、センター長、主事15人が参加した。産大からは春日俊雄・経済学部客員講師(3)が「里地・里山・里海の持続に向けた地域活動の視点」をテーマに、地元の高柳や他県の事例を紹介しながら、

「私たちは未来の時間を持つていない」「若い地域人材を応援する仕組みを作る」と述べ、「町内の多様な人々と町外の多様な人々が活発に出会うなどつながりをつくるのが大切」などを提案した。

学生3人も参加し、藤野凛さん（岐阜県出身）、今村奈津希さん（三重県出身）、本田翔大さん（長野県出身）は「いずれも3年間は柏崎の印象などを語った。この中で「暮らしやすく、自然が豊か」「まちの人たちの気持ちが温かい」などと言い、「地域の人と関わりたい」ともした。

研修会を終え、剣野コミセンの高橋達也センター長(65)は「これをきっかけとして、大学との関係づくり・連携をしていければと思う。地域は若い人の力を必要としている。学生にコミュニティ計画やマップ、冊子、広報紙など西部郷5地区の情報資料をお渡しした。地元の人でなくても、関心を持っていたらけるとありがたい」と期待を寄せた。



西部地区の5コミセンによる研修会。新潟産大との交流を深めた市内東の輪、旅館広川

「新潟大学」 地域に学ぶ 地域を学ぶ 実践活動レポート

「コミセン祭り」
「あいくる」PR
柏崎の秋は地域ごとの個性あふれる「コミセン祭り」が開催され、各地でにぎわいを見せている。この度、文化経済学科榎田ゼミの学生が、高田「コミセン主催の「ほっとたかだコミセン祭り」に参加し、市のAI新交通「あいくる」の相談コーナーの運営補助を行った。

学生らは今年5月に「くらしのサポートセンターえきまへ」でスマホ教室を開催し、「あいくる」の利用者がLINEやスマホアプリから予約できるようにサポートを行った。この実績が今回の参加につながった。

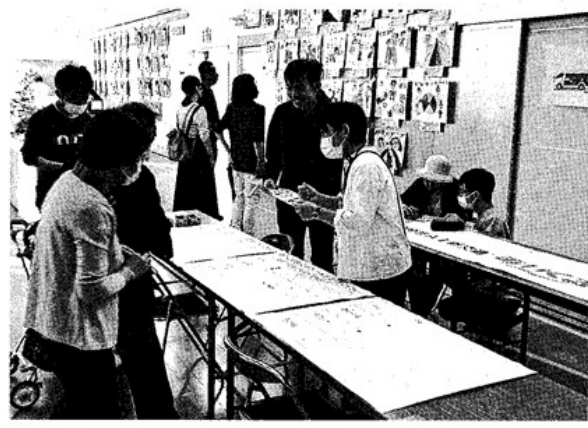
相談コーナーでは、「あいくる」の利用相談やLINE登録のサポートを実施。また交通機関の利用に関するアンケートも行い、交通機関にかかわる現状や困りごとについても知る機会があった。

参加した4年の岸田高也さんは「コミセンでのPR活動は初めてだったが、多くの方々から相談コーナーにお越しいただいた。実際に登録手続きをされた方もいらして、地域の方のお役に立てたことがうれしかったと振り返る。

当日指導をいただいた市介護高齢課の担当者からは「学生の持つスマホに関する高い知識やスキルを活かす（い）かし、丁寧な説明をしている姿が見られた。何より学生と交流することで、地域の方たちも元気をもらうことができ、スマホを通じた良い世代間交流につながっていると感じた」と学生がPRに参加する効果を感じていただいていたようである。

作のコーナーを出し、子どもたちを中心に多くの交流の機会を持つことができた。今後も学生の得意な分野や若者らしいアプローチで微力ながらも地域の課題解決の一助

となれる機会を広げていきたい。
経済学部准教授、地域連携センター長・榎田恭子
（同大学地域連携センター）



新潟産業大学附属柏崎研究所主催

第7回 柏崎学シンポジウム



「既存組織の機能アップ& 市民共創による日常の豊かさをつくる!を考える」

～ 人口減少に対応する創造的な地域活動の視点 ～



Zoom
同時開催

12/1(日) 13:00～16:30

新潟産業大学 202教室
(柏崎市軽井川4730)

参加方法 会場・オンライン 参加無料
定員 会場200人

お申し込み・お問い合わせ先
TEL.0257-24-8664
media@ada.nsu.ac.jp
参加申込締切:11/28(木)



後援/柏崎市、刈羽村、出雲崎町、新潟県柏崎地域振興局、柏崎商工会議所、(一社)柏崎青年会議所
(学友) 柏崎市コミュニティ推進協議会、柏崎日報社、柏崎コミュニティ放送

第一部

地域からの活動報告 13:10～14:20 頃

- 新潟産業大学安達ゼミ 村上翔琉さん、奥野飛龍さん
 - 海辺のキッチン倶楽部もく代表 黒崎朝子 氏
 - 南鱒石コミセン ワイワイ里山振興部長 石塚雄一郎 氏
 - 西長島なじらね代表 池田司史 氏
 - umicafe DONA 代表 柘植香織 氏
- ※質問・コメントーター/産大・小林健彦 教授、金光林 教授、造谷胡樹 助教

第二部

パネルディスカッション

「創造的な地域活動の視点」 14:30～16:20 頃

- パネラー/●上越市袖(そま)事務所代表 関原剛 氏
- 株式会社ヒューマンルネサンス研究所 エグゼクティブ・フェロー 中間真一 氏
 - 柏崎研究所主席研究員 春日俊雄
- ※コーディネーター/西村遼平氏(学校教育やまちづくりで活躍)

人口減少へ対応

活動報告とパネル討論

柏崎学シンポジウム 産大で12月1日

新潟産大附属柏崎研究所（所長 住吉廣行副学長）が12月1日午後1時から、第7回柏崎学シンポジウムを同大で開く。テーマは「既存組織の機能アップ&市民共創による日常の豊かさをつくる」を考える。人口減少に対応する創造的な地域活動の視点」。活動報告、パネルディスカッションの2部構成で進める。

同大は「地域の地（知）の中核的拠点」として2016年度、柏崎研究所を開設した。柏崎学

では地域の産業、経済、社会、歴史・文化、観光・スポーツなどをさまざまな分野に関する調査・研究を行い、課題解決や振興に寄与することを目的にしている。

地域社会では人口減少・少子高齢化の進行に伴い、学校統合や交通機関再編、人手不足などの影響が表れている。今後さらに深刻さを増す人口減少は行政のみならず、地域社会がこの変化に対応し、新たな考え方を、仕組みを生み出し、次世代につながるローカル・イノベーションの推進が求められ

る。シンポジウムはこうした背景を踏まえ、その推進に向けたきつかけづくりとする。

第1部では地域からの活動報告として市内の5個人・団体が発表する。第2部は「創造的な地域活動の視点」をテーマに、3人によるパネルディスカッション。終了は4時半。参加無料。問い合わせ、申し込みは同研究所（電話24・8664、電子メール media@ada.niigata.ac.jp）へ。または申し込みフォーム（別掲）で。締め切りは11月28日。会場参加の定員は200人、オンライン視聴もでき

発表は次の人たち。

【第1部】新潟産大安達ゼミ（村上翔琉、奥野飛龍）▽海辺のキッチン倶楽部もく代表・黒崎朝子▽南鱧石コミセンワイワイ里山振興部長・石塚雄一郎▽西長鳥なじらね代表・池田司史▽umikafe Dona

代表・柘植香織

【第2部】上越市杣事務所代表・関原剛▽ヒューマンルネッサンス研究所エグゼクティブ・アエロ・中間真一▽新潟産大附属柏崎研究所主席研究員・春日俊雄▽コーディネーター・西村遼平（レストランオーナー、地域づくり講師）

